

小 59 香焼小 令和5年度 学力向上プラン

1 学校教育目標



笑顔いっぱい

元気いっぱい

やる気いっぱい

～気力・体力・学力 3つの力もちになろう～

2 本校の学力向上のための視点

今年度の全国学力調査と長崎県・市の学力調査の分析結果を受け、国語・算数において、課題とする領域を重点指導項目とし、それぞれの教科を県・市平均値以上まで押し上げることを目標とする。

(1) 児童の学力に関する実態分析 ※平均値は、県(6・5年)・市(4・3年)を基準とする。

全国 6年	「話すこと」「聞くこと」が全国平均よりも高かった。毎日の振り返りによる「書くこと」を継続指導した結果の現れと考えられる。「知識・技能」が平均よりもかなり落ちていた。言葉の使い方や情報の扱い方について理解し、書く力を高める必要がある。	「データの活用」において、根拠を持って二次元表を読み取ることができていた。「変化と関係」では、平均値に満たない結果が出た。比例の関係について、式や言葉で説明する力に充実させたい。
県 5年	「知識・技能」「読むこと」「書くこと」「話すこと」「聞くこと」全般において、理解と習熟を深めることが課題といえる。	「測定」「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」全般において、理解と習熟を深めることが課題といえる。
市 4年	「話すこと」「聞くこと」が全国平均よりも高い理解を示していた。姿勢も含め、良好な結果といえる。「書くこと」については平均より低く、要点を押さえて書くなどの言語活動の充実が望まれる。	「数と計算」では、平均より高い結果が出ており、安定した理解が認められる。「測定」「データの活用」において、正答率の低下が見られた。数学的な活動を十分行うことで実測による意味理解を深めさせたい。
市 3年	「言葉の使い方と情報の扱い方」は平均より高い理解が示されていた。「話すこと・聞くこと」は正答率の低さが目立ったので、日常的に話す場を設けたり、聞いたことを文章化したりする活動を増やしたい。	「図形」「測定」がほぼ平均に達しており、安定した理解が認められる。「数と計算」「データの活用」が若干平均より下回っているため、基本的な計算スキルやデータを読み取る活動に力を入れたい。

(2) 全校共通の具体的取組み

1 学校 2 担任 3 担当者

校 内 研 究		
主 題 「対話力・活用力・探究力を育てる授業の実践」 副主題 ～こうやぎGIGAスクール構想の実現を目指して～		
○授業開発 (ICTを活用した上で、対話力、活用力、探究力に焦点を当てた授業を開発し、実践する。)		2
○個別最適化 (オンライン授業、AIドリルの活用) ※あじさいスタンダード、香焼スタンダードの活用		2
○業務改善 (ICTを活用し、業務負担を軽減し生産性の向上を図る)		2
学 習 規 律 の 確 立		
○「香焼スタンダード」等の各学年に応じた内容の充実を図る。		2
○支援の必要な児童については、コーディネーターが校内委員会で対応を決定し、児童支援担当を中心に組織的に支援していく。		3

幼 保 ・ 中 と の 連 携	
○小中連携で年2回程度の相互授業参観を行い、9年間の学びの仕方を共通理解する。	3
○幼保小連携で年2回程度の相互授業参観を行い、互いの指導法等を共通理解する。	3
指 導 力 の 向 上	
○研究授業後には、ワークショップ型授業反省会を仕組み、職員相互の考えの良さを認め合いながら理想の授業を追究することで指導力を高める。	3
○「分かる授業」実現のため、ICTの活用を図る。(GIGAスクール構想)	3
○言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。一人で考えを深める場面と共に、児童同士の話し合いをする等の様々な関わりの中で「児童同士の主体的、対話的で深い学び」を具現化する。	2
○全教科で書く活動を取り入れ、めあてや予想、授業で学んだこと、自分や友達の考え方がきちんと残るノート指導を行う。	2
指 導 体 制 の 充 実	
○学力向上プロジェクトを中心に職員、児童、保護者、地域へ働きかける。	3
○各学級で学力向上の具体策を作成し、日々の取組に生かす。学期ごとに振り返る。	2・3
○担任と少人数担当教員で、習熟度学習やT・Tを行い、きめ細かな指導を行う。	2
○香焼子ども寺子屋学習教室では、地域の学校サポーターの協力を得て1、2年生の基礎的な学力向上を図る。	3
基 礎 基 本 の 徹 底 ・ 活 用 問 題 へ の 取 組 み	
○「算数・国語タイム」では、基礎的な計算問題や漢字練習にも取り組む。	2
○「算数・国語タイム」では、2学期(9月・11月)、3学期(2月)を強化月間として位置づける。その際には教育センターの「活用教材」やアシストシートを活用する。また、いつでも活用できるように、一人一人の冊子を準備する。	1・2
読 書 活 動 の 推 進	
○読書タイムや国語の時間を中心に、家庭学習としても取り組む。	2
○一人1年間(低学年100冊・中学年80冊・高学年60冊)を目指し、学校と図書館司書、図書担当者からの意欲付けの取組を進める。	2・3
○学校図書館司書と協力して、子ども達が興味を持って読書をしやすいような環境作りを行う。	1・3
○読み聞かせボランティアとの連携を深め、児童が読書に興味をもてるようにする。	3
主 体 的 に 学 ぶ 態 度 の 向 上	
○chromebook、ipad、指導者用PC、電子黒板等(ICT機器)を活用し、自ら情報を取り込み、伝える方法を工夫することで、主体的に学ぶ態度の向上を図る。	2
○児童に具体的な目標(理想の姿や思い)を持たせ、活動の過程を認めたり、言動や作品、数値等の変容を示したりすることで、自己の成長を認識させて意欲を高める。	2
家 庭 学 習 習 慣 の 定 着	
○香焼スタンダードを各家庭に配付し、発達段階に応じた学習時間や学習内容(チャレンジ自主学习)等の目安を保護者に示す。	1・2
○すべての学年で、家庭学習の内容や量、習慣づけに関して、懇談会や学級通信等で共通理解し、保護者自身が評価できるようにする。	2
○各学年に応じた家庭学習「音読、自主学习、予習・復習」などを工夫し、実行率100%を目指す。そのために、学級だよりに掲載したり学級懇談会で話題にしたりする。	2

(3) 各学級の具体的取組

[今年度の取組]

学年	国 語	算 数
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・文節読みが苦手な児童が多いため、音読や読書を通して言葉に慣れ親しませ、文字や文章を正確に読む力、内容を理解する力を身に付けさせる。毎日音読を家庭学習に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題はできるようになってきているので算数タイムを活用し練習問題や文章題に取り組み、個々のレベルアップを目指す。 ・毎日算数プリント1枚を取り組み、算数の理解、計算スピードアップを目指す。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで自分の考えを書く児童が多く、意欲的に書く活動に取り組んでいる。しかし、「わ」と「は」などの助詞の使い分け、句読点の使い方などに課題があるため、普段のノート指導や作文指導で定着させる。 ・漢字の定着には個人差があるため、事前に小テストの日程を伝え、家庭学習を行うことができるよう家庭との連携を図る。毎小テストでクラス平均を伝え、再テストを行うことで意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単純な計算問題は少しずつできるようになってきているので、継続的に算数タイムを活用する。文章題や、長さ、水のかさ、時計といった分野の理解はまだ十分ではないため、多くの問題に触れさせながら個への支援を充実させる。 ・算数プリントや AI ドリルを毎日の宿題で活用し、意図的に選定する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」の平均値より低かった。付箋や学習ノート、学習プリント等を活用して、国語科を中心に、ペアやグループでの話し合いの機会を持つ。 ・日常的に、自分の考えを伝えることや相手の話の要点をつかんで聞くことを意識づける。朝の会などのスピーチタイムに、話し手の伝えたいことを聞き、必要なことを質問する力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題となると、極端に正答率が下がる。書かれていることの意味を理解し、具体的に絵や図に表して立式させるようにする。 ・かけ算九九が瞬時に出てくるように、日常的に声をかける。 ・AIドリルを活用し、個人の苦手分野に応じて、既習内容の定着を図る。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業の中で、音読指導を行う。長文ではなく、短文を繰り返し指導する。 ・毎日の日記の中で、一文・段落・主語・述語の関係を意識させながら、繰り返し書かせる。 ・国語の文法的なものに関する知識が乏しい。単元の中で出てきた簡単な文法を指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角定規や分度器、直線定規などの道具を使いこなすことが、なかなかできない。単元によりけりだが、算数の道具を使う場面をできるだけたくさん設定し、数多く使わせるようにさせる。 ・データの活用に関して、データの見方や考え方、使い方などの指導を行っていく。データ量の多さに惑わされていくことなく、チェックの仕方等も指導していく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」「話す・聞くこと」の平均値が低かった。読解力の不足や理解に時間がかかることが原因の1つと考えられる。音読や読書、意味調べ等を通して言葉に慣れ親しませるとともに語彙を増やし、文章を速く正確に読む力を身に付けさせる。また、各教科等において書く活動を重視し、自分の考えや振り返りを適切な言葉を使い、筋道立てて書かせることで思考力や表現力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「データの活用」の平均値が低かった。表やグラフから必要な情報を読み取り、目的に応じて特徴や傾向を捉えることができていなかった。日常生活の中の事象について興味をもって資料を収集したり、目的をはっきりさせて分類整理し、表やグラフを作成したりする数学的活動を積極的に取り入れる。また、具体物や言葉、数、式、図を用いて自分の考えを説明する活動を通して、資料の見方や考え方を広げ深める。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の平均値が低かった。授業の中でも、自分の考えを正しい言葉を使って書くことを苦手としている児童が多い。文のつながりに注意しながら正しく作文するトレーニングを国語タイムなどの時間を使って実施する。 ・漢字の定着にも個人差があるため、定期的に小テストで確認をし、その後の50問テストでの高得点獲得につなげていく。テストまで反復練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生と同様「データの活用」の平均値が低かった。表やグラフから必要な情報を読み取り、目的に応じて特徴や傾向を捉えることができていなかった。日常生活の中の事象について興味をもって資料を収集したり、目的をはっきりさせて分類整理し、表やグラフを作成したりする数学的活動を積極的に取り入れる。また、具体物や言葉、数、式、図を用いて自分の考えを説明する活動を通して、資料の見方や考え方を広げ深める。